

燧ヶ岳スキー

2018 年 4 月 28 日

秋葉信夫、栗崎透、栗崎容子、伊藤、下山田、菊地、松本



今年の 4 月山行は尾瀬周辺とし、28 日は燧ヶ岳、29 日は会津駒ヶ岳、30 日は大中子山とした。それぞれが都合の良い日に参加することとし 12 名の参加で楽しい山行となった。

29 日は 11 名の参加だったが、上記 7 名はスキー、他の 4 名はツボ脚で登ることとした。

同時に御池を出発するが、菊地さんと松本さんはシール登行に慣れてい

ないので苦労し、途中からスキーを背負って登ってもらう。

広沢田代に着くと下山田さんが待っていてくれた。熊沢田代で全員集合、雪が例年より少なく木道がこんなに出来ているのは初めてだ。ここから見える平ヶ岳や越後三山は素晴らしい。

昼食とする。ワインとクッキーにトッピングの乾燥フルーツのオリーブオイル漬けが美味しい。

ツボ組は先に出発、下山田、菊地、松本はここから戻ることにして、頂上に向かう秋葉、栗崎夫妻、伊藤とは別行動にすることにした。

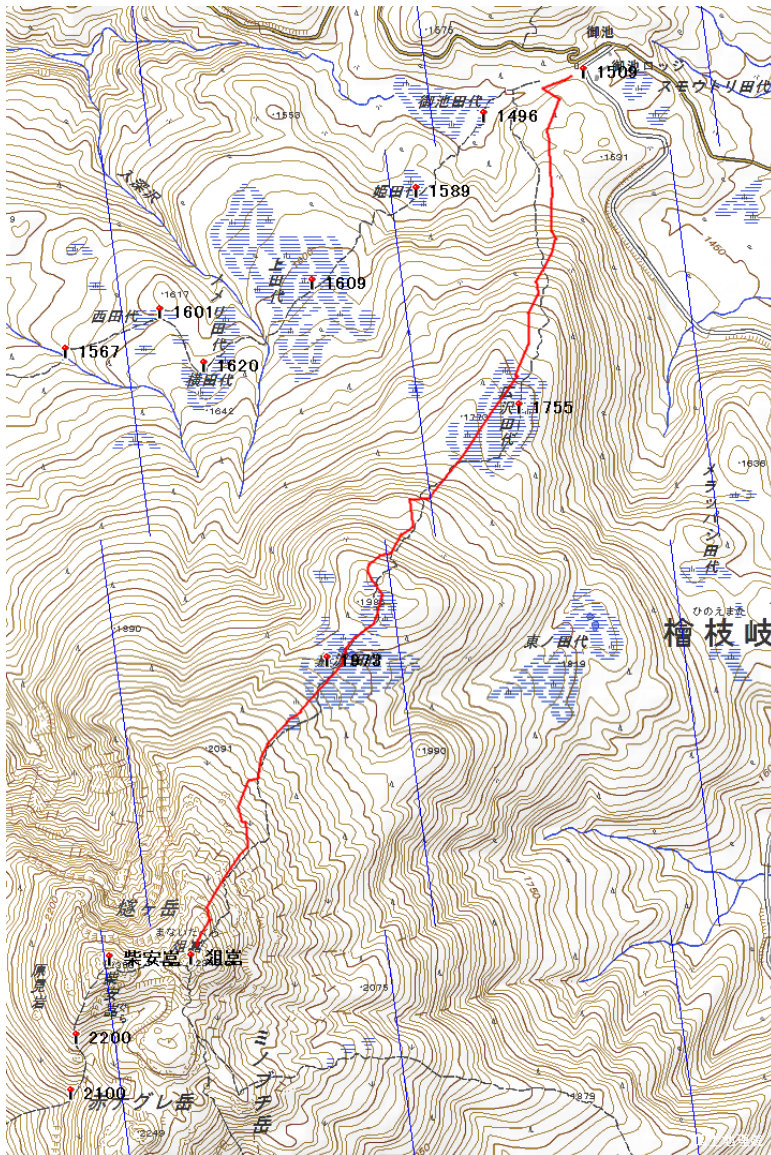
頂上で合流、私たちが今日最後の登山者であろう、正に 360 度の展望！全員で堪能する。

いよいよ待望の滑降に入る。それぞれが思いの通りに滑る。気持ちイイ～！

伸び伸びとした滑りで練習の成果が見て取れる。



俎倉からの
尾瀬ヶ原と至仏山



しかし、私は広沢田代の上部で枯木にぶつかり上唇を切ってしまった。出血したが大事に至らず良かった。

御池に戻ると、先に着いてるはずの下山田さんたちがいない？ 大分遅れはしたが颯爽と滑り込み一安心。ミニ尾瀬公園駐車場に移動し、芳賀さんの餃子鍋で盛大に天気祭りをを行った。

登り 御池 9:20 → 広沢田代 11:00
→ 熊沢田代 12:30 → 組倉 14:00

下り 組倉 14:30 → 熊沢田代 15:20 →
広沢田代 15:50 → 御池 16:15
(文責：秋葉)

2018 年 4 月山行 残雪期の尾瀬周辺

2018 年 4 月 28 日

参加者 11 名

5:00 水石トンネル発 → 檜枝岐 → 9:00 御池駐車場着

御池駐車場 9:20 → 熊沢田代 12:20 (昼食) → 組倉 13:30 → 下山開始 14:20 → 御池田代 → 御池駐車場 17:00

ゴールデンウィーク前半。天気予報では晴れの予報だったが目的地到着時点でやや曇り。意外に気温が上がらず予報は外れたかと心配になる。

スキー組、ツボ足組に分かれて登山開始。

スキー組は、秋葉さん・下山田さん・栗崎さんご夫婦・伊藤さん・菊地さん・松本さん。

ツボ足組は、馬場さん・芳賀さん・渋谷さん・山縣の 4 名。行動するにつれ天候が回復し、ほどなく雲一つ無い快晴に。風もなく、絶景を楽しめるベストコンディションとなる。

夏には利用できない登山口からスタート。ベテラン会員によれば、今年は雪が少ないとの事。確かに、ところどころ木の根や小枝が張り出しており「例年ならもっとスムーズにスキーを楽しめるのに」と聞く。途中、熊の足跡らしき跡を発見。狍友会とみられる方々の巡回も目にした。

ツボ足組、12時20分熊沢田代到着。秋葉氏・栗崎氏・伊藤氏も合流し昼食。残りのスキーメンバーの到着を待たずにツボ足組が先行して頂上目指して出発！

快晴で気温も上がり雪はシャーベット状態で足がとられて歩きにくい。途中足が攀ったが、何とか頂上に立ち、尾瀬沼・尾瀬ヶ原を一望した瞬間に疲れが吹き飛ばす。

14時20分ツボ足組下山開始。登ってきた道を上から眺めると結構な傾斜！「こんな急登、よく頑張った！」と我ながら関心する。スキー組の華麗な滑りに励まされながら慎重に下山。グズグズの雪に足を取られ、思った以上に時間がかかるうえに、目印も無く、周りは同じような景色に見え、残雪期の登山の難しさを痛感する。17時。御池田代を経由して入山地点と異なる出口から駐車場着。



秋葉さん、下山時に木の根に足を取られ切り株に接触。唇・下あごに軽傷を負う。大事なくホットする。下山田さん・菊地さん・松本さんの3名は、熊沢田代から下山。急な坂のスキー下山は、なかなかの苦労があった様子。下山は17時。

全員が揃い、ミニ尾瀬公園駐車場へ移動。テント・車中泊それぞれに準備。

夕食は、芳賀さん手作りギョーザ使用の鍋・材料現地調達！秋葉さんのふきのとうの天ぷら・栗崎さんご夫婦からの差し入れの刺身と自家製エシャレットのアンチョビマヨネーズ添え・その他差し入れ多数で豪華な

食事。楽しい宴となりました。21時頃就寝。

何をするのも先輩方の準備と手際の良さに只々関心するばかり。体験丸ごと学びになりました。

翌朝6時、会津駒ヶ岳へ出発。

(文責・山縣)

佐倉山 (1,073m)

平成30年4月29日(日)

秋葉、芳賀、太

残雪の山「尾瀬周辺」3日目は雪が少ないために大中子山登山を中止、いわきへの帰路、佐倉山登山となった。前日2日目の夜を道の駅番屋の駐車場で過ごし、翌朝登山口へ。



佐倉山の東登山口（精舎登山口）は、刈り払いのうえ整地、側溝や柵も整備されて駐車しやすくなっていたが、駐車スペースはそのまま、大型ワゴン、軽ワゴンの2台でいっぱいになった。

当日のいわきへの帰路は5人だったが、2名は車で待機。秋葉、芳賀、太の3名で登山を開始。佐倉山にあこがれていた太が勇んだペースで雑木林の中を登っていく。その後を芳賀、秋葉と続く。

枯葉で踏み跡が見えづらくなった九十九折は、沢側が急斜面で、足を滑らせ転がれば、下まで行けそうな傾斜。

ほどなく岩尾根（屏風岩）に到着し、慎重に進む。右は断崖。左も岩の下は引き続き急斜面。

無事に岩場を過ぎて振り返ると、巻き道はもう少し長かったと判明。見落とし、ルート研究不足だった。

岩場の先も痩せ馬の背中状態だが、登りきると最初のピーク。

その後も両側急斜面の登山道で登り下りを繰り返す、途中 1.2m くらいの青大将を発見。

こんな山の上で、いったい何を食べて成長しているのか。そこそこ大きい。

平坦な広場のあるピークに到着。テレビ塔のあったピークで、「NHK」と入ったコンクリート杭と、電線ケーブル管、コンクリート残骸が、かつての存在を窺わせる。麓の集落を間近に眺め、展望は十分。佐倉山の頂上が目の前に大きくそびえる。

テレビ塔跡ピークを下り、またアップダウン。トラロープのある岩場、急斜面を登っては、頂上はまだか状態で、前半に比べて大幅にペースダウン。目の前に壁のように立ちのぼるルートを何度も休憩しながら少しずつ登る。自分にはまだ無理だったか、下山は大丈夫か、もう二度と来ないぞ、こんなところソロで来る場所じゃないだろう、ベテラン秋葉以外は、そんな思いを抱く。怖さを抑えながら崖になった最後の岩場を、やっと登ると山頂。

尖がった山だけに頂上は狭いが、三角点がいずれも鎮座し、山名、標高を記した板も樹木にかかっている。そして、さすが「館岩のmatterホルン」。ぐると視界が開けている。

北から東にかけて、たかつえ高原、その向こうに七ヶ岳。南にかけて、荒海（太郎）山。西に、会津駒ヶ岳、などなど。素晴らしい景色を暫し楽しんだ後、すぐ下山へ。急峻な岩場の連続だった東側登山道をやめて、下山は南西側登山道を利用。東側登山道より緩やかということだが、尖った山で急斜面のため、下りも気が抜けない。両側は、相変わらず、落ちたら登り返しが困難な急斜面が続く。うっかり蹴った石が、音を立てて見えない先まで転がり落ちていく。

頂上を下って2つ目あたりのコルで、登山道にクマのものと思われる多量のフンを発見。数日前のものか、新しくないが用心して進む。

登山道が尾根から沢になったとき、ルートを見失うも、ビニールハウスが見えたので、枯れ沢を歩いてそちらへ進む。しばらくして目印のテープを見つけて、30m くらい離れたところが登山道と判明。とにかく無事に山林から畑へ出る。

登山口で何やら標識のようなものを発見。よく見ると、動物用ワナの許可とキケン注意の告知。自分たちがわからなかったことに安堵した。

登山口から伊与戸川に沿った林道を集落まで下り、国道を歩いて東登山口まで戻った。

林道では崖の洞に置かれたミツバチ巣箱や、川遊びする親子を発見。国道では農家の方から、佐倉山は

田部井淳子がうつくしま百名山で「館岩のmatterホルン」と紹介したとか、近くに古戦場や旧城跡があるとか、お話をいただいた。

山行での花は、イワウチワが美しいと事前に聞いていたが、緊張ためか記憶に残らなかった。ツツジやコブシが多少印象に残ったくらいだった。

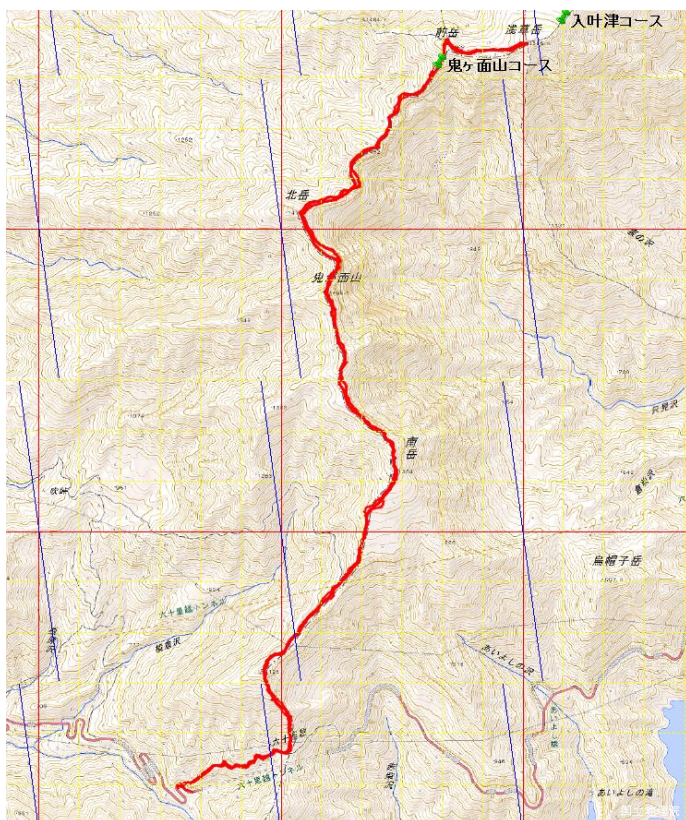
コースタイム

東登山口（精舎登山口）7:51 テレビ塔跡 8:44 山頂 9:43 南西登山口（伊与戸川登山口）11:00 東登山口 12:10

文責：太

鬼が面山 1465m、浅草岳 1585m

平成 30 年 5 月 5 日（土） 秋葉、伊藤、渡辺（敏）



5月5日（土）昨夜はにわか雨があったが、朝の様子では曇りがちだが雨が上がり天候は何とか持ちそうな雰囲気であった。7時前にテントをたたみ六十里越の登山口へ向かった。鬼が面山までは残雪が所々にあり、慎重に通過しなければならない場所や、夏道が雪に隠れてルートが分かりづらいところが何か所かあった。鬼が面山には10時過ぎに着いた。途中雨が降り

五月の連休の後半に新潟、只見県境の桧岳、毛猛山を予定していたが、天候がよくないのと今年は4月から気温が高く雪解けが早く進み、稜線には雪がなく藪が出て状況がよくないので、鬼が面山と会津朝日岳に予定を変更した。

5月4日（金）午後2時水石トンネルに集合して出発した。最初の予定では5日に浅草岳を登る予定にしていたが、5日の午前中は天候がよくない予報だったので、午後からでも登れる鬼が面山に変更し、高速道路を使って坂下インターから只見町へ向かった。金山町の雨が降ってもしのげる大塩温泉天然炭酸水休憩所の中にテントを張り3人で明日の天気に期待しながら天気祭りで盛り上がった。



出したが時間も早く午後には天候が回復しそうなので、浅草岳まで行くことにした。鬼が面山の福島県側は垂直に切れ落ちた絶壁が続く。浅草岳までは稜線沿いにアップダウンの繰り返しが続く。結構疲れる。午後からは天候が回復して楽しい縦走ができた。



下山後、只見町で買い物をして次の目的の会津朝日岳登山口のイワナの里へと向かった。

コースタイム 六十里越トンネル登山口 7:35→南岳 9:44→鬼が面山 10:17 10:28→浅草岳 12:07 12:31→鬼が面山 14:04→南岳 14:38→登山口 16:02 (文責 渡辺敏夫)

会津朝日岳

平成 30 年 5 月 6 日 (日) 秋葉・渡辺 (敏)・伊藤

前日の浅草岳下山後、会津朝日岳登山口にて宿泊する予定でしたが、積雪により登山口駐車場まで車を進める事が出来ず、登山口下流の河川敷にてテント泊を行ないました。翌朝いわなの里構内へ駐車させて頂き登山開始。スタッフの方へは前日にご相談させて頂き駐車を快諾して頂きました。この場をお借りし改めてお礼申し上げます。

赤倉沢を徒渉するところから始まりますが、先頭に行く秋葉さんが川底の石に足を滑らせまさかの転倒。靴の中や下着まで濡らしてしまうハプニングに見舞われてしまい、カメラを構えていた私は、驚きながらもついついシャッターを切ってしまいました。

(秋葉さんすみません(汗)) やはり先頭に行くリスクは大きいなと実感。いつもありがとうございます！

雪に埋もれた沢を進んで行きますが、雪解けにより所々で見える水量はかなりのもので、足もとの踏み抜きに気をつけながら歩みを進めました。

三吉ミチギと呼ばれる水場のあたりからはだいぶ急登になり、人見ノ松まで一気に標高を上げていきます。

叶の高手に到着すると初めて会津朝日岳の姿を見ることが出来ました。





一度鞍部まで下った後、再び登り避難小屋に到着。そこから山頂まではどんどん傾斜が強くなり、山頂直下はまるで雪の壁の様です。

時期的に雪崩の警戒も必要な中、体力的な厳しさはもちろんありますが、その傾斜による高度感と足下の緩んだ雪質は恐怖すら感じ、一歩一歩アイゼンの掛かりを確かめながら登って行きました。

今回私が用意したのは軽アイゼンでしたが、通常の前爪のあるアイゼンの方が良かったかも知れません。

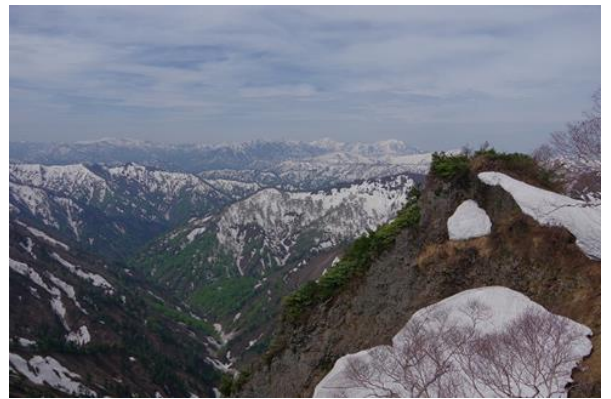
山頂からの展望は素晴らしく、昨日の鬼ヶ面山や浅草岳、越後三山や飯豊山など、四方を見渡すことが出来ました。



しばらく山頂に滞在したのち足下に気をつけながら下山開始。



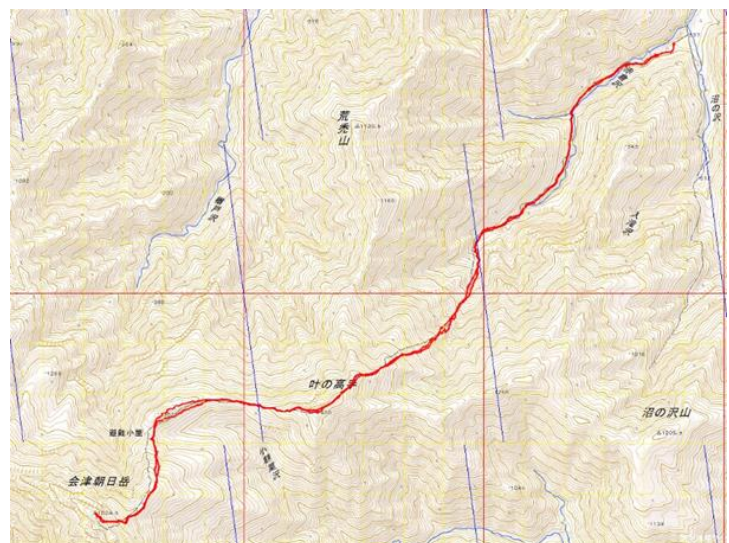
振り返ると雪の斜面に自分たちの足跡が刻まれた会津朝日岳の姿を眺めることが出来て親近感を覚えました、その姿は叶の



高手を最後に見ることが出来なくなりました。

気温も上がり朝と比べてだいぶ緩んだ雪を踏みながら、水量の増した沢も問題なく徒渉し、いわなの里へ到着。

天候にも恵まれ、前日の浅草岳を含め素晴らしい山行を無事締めくくることが出来ました。





いわなの里 5:20→三吉ミチギ 6:30→人見ノ末 7:50→叶の高手 8:30→避難小屋 9:10→山頂 10:00
→叶の高手 11:50→三吉ミチギ 12:40→いわなの里 13:50

(文責 伊藤)

八溝山 1022m

5月15日(火) 秋葉、下山田、菊池、渡辺(敏)

八溝山は山頂まで道路が通じているが、福島県側からはいろいろな登山コースがある。最初は秋葉さんが山頂から大梅部落までのコースを考えていたが、時間が9時間以上かかるため出発時間が遅いのと、下山口に車を準備する必要があるので、このコースはまた別の機会とし、今回は茗荷林道からの往復コースとした。茗荷林道は終点まで車で入れればわずかな時間で往復できるが、林道の途中で進入禁止になっているので、進入禁止のところから歩き出した。林道終点まで4.2km、1時間余りの林道歩きである。今日は福島市では30度を超える最高気温が予想されているので、気温が上昇しそうである。しかし、日陰は爽やかで新緑に包まれ、鳥のさえずりを聞きながら病み上がりの下ちゃんにペースを合わせながらゆっくりと山頂を目指した。この周辺は八溝山天然林の指定があり、いろいろな樹種の名前を書いた札が付けられ、樹木の種類の学習になる。途中、天然林愛好会の集まりがあるそうで、四十数名の参加者に遭遇した。山頂の展望台からは、もやがかかってあまり遠くまで見通せなかった。わずかに那須の山々や、近くの阿武隈の山が見える程度であった。新緑の中ゆったりと登山を満喫できた。



コースタイム

茗荷林道登山口 9:44→林道終点 11:03 11:07→山頂 12:21 12:58→林道終点 14:06→林道登山口 15:03

文責 渡辺敏夫



丑の倉岩登り訓練

平成 30 年 5 月 13 日(日)

秋葉、菅野、富岡、渡辺(恵)、山本、柏村、甲高、見学者 1 名

8:00 ニッ箭山駐車場集合。丑の倉へ移動。8:30 より訓練開始。講師は秋葉さん。サブの講師として菅野さんと富岡さん。経験者として渡辺恵子さん山本さん。生徒は初心者の柏村さんと甲高です。受講内容は

- (1) 懸垂下降(エイトカンまたはビレイデバイス+プルージックの安全装置付き)
- (2) 懸垂下降(11プルージックの安全装置なし)
- (3) ムンターヒッチでの引き上げ、引き下ろし
- (4) ロープが不足した場合の、プルージックを用いた登り返し



上記の(1)～(3)は全員クリアでしたが(4)は富岡さんのみ挑戦しました。

雨のため、午前中にて終了。たったこれだけでしたが、初めての私にとってはとても盛りだくさんでした。支点の取り方、カラビナ、エイトカンの使い方、ロープの投げ方・回収の仕方、ハーネスへのロープの通し方、全てにおいて初めてでとても勉強になりました。

(文責：甲高)

岩登り訓練 その2

2018 年 5 月 19 日 秋葉、渡辺敏夫、馬場、菅野、甲高

ニッ箭山で行う予定でしたが、朝まで雨だったので屋根のある小玉ダムキャンプ場炊事棟に変更して実施しました。雨も上がり気持ちの良い訓練をすることができました。

午前中に行ったことは

- 1 確保のしかた
- 2 滑落停止と確保者の脱出
- 3 滑落者の引き上げの方法
 - ① 3分の1方式 ②5分の1方式
- 4 滑落者の引き下ろしの方法

午後は小玉川に移動し、道路の擁壁とガードレールを利用して

- 1 支点の取り方
- 2 懸垂下降
- 3 途中固定
- 4 トップロープで
 - ① 下からの確保 ②上からの確保
- 5 ロープの下ろし方、まとめ方



(文責:秋葉)

岩登り訓練 その3

ニッ箭山

2018年5月19日 秋葉、渡辺敏夫、富岡、柳内



- 1 女体山の北面で、トップロープでの登下降
- 2 男体山の南面で、懸垂下降、ロープの結び目の通過
- 3 中間支点の通過の仕方

本日も天候に恵まれ気持ちの良い訓練ができました。

(文責:秋葉)

銀次郎山・銀太郎山

平成 30 年 5 月 6 日(日) 甲高

登山教室での関口さんの「残雪期の楽しみ」での紹介がとても印象に残り、急ぎ準備して出かけました（登山適期が 4 月～5 月のみ）。悪場峠出発し水無平でカタクリの群生に出会い、その後本格的な登りです。木六山への途中でサルに出会います。サルはこちらを見ても一切逃げません。よってこちらが迂回（ロスタイム 15 分）。さらに進むと、登山道に規制線が張ってあります。規制線の中にもピンクテープがあり不審に思うも、迂回してトラバースの登山道を進みます。しかし、その道がわかりにくい。登山道に溶けかかった雪渓がかぶって道迷い（ロスタイム 30 分＋擦り傷 2 カ所）。そんなこんなで木六山に到着。地元の方々がいたので話を聞くと「規制線は私有地のため張ってあるだけ。くぐってくれば登山道も明瞭で登りやすい」とのこと（帰りはそちらを下りました）。その後、アップダウンの稜線を歩き、急な雪渓を登ると七郎平へ到着。そこからはイワウチワ、イワカガミ、カタクリ、ショウジョウバカマ、オオカメノキ、に癒やされながら銀次郎へ到着。さらに、銀太郎へはタムシバが登山道沿いに鈴なりです。ようやく銀太郎到着。銀次郎も銀太郎も 360 度の絶景。御神楽岳をバックに撮影し下山しました。



さて、教訓の多い山行でした。まず、ジオグラフィカの位置情報がスタートからすぐに地図上の登山道らしい破線から外れていたが、自分が歩いた道が正しかったらしい（それが前述の道迷いにつながった）。文責:甲高

悪場峠 5:06-木六山 7:08-七郎平 8:26-銀次郎 9:14-銀太郎 10:02-木六山 12:46-悪場峠 13:58

ガロ山登山 2018.04.16.

秋葉、下山田、栗崎（透）、栗崎（容）、志尾崎、芳賀、松本

快晴のなか登山開始。

のんびり花の話をしながらの山登りかと思いきや、登山口から少し進むといきなり心臓破りの急登！

なかなかの角度で帰りはここを下りたくないなぁと思いながら脚を運びます。

休み休み登り尾根沿いに出ると風が。

暑いと思って脱いだシェルを着たり、風が止むと一気に暑くなって脱いだりと忙しいです。

でもこまめな体温調節は大事ですね。

ガロ山では大きなブナの木にたくさん出会いました。

横に大きく枝を伸ばした翁ブナ。

木の足元にぽっかり開いた室に観音様が佇んでいるように見える観音ブナ。

そして、最後に出会ったブナ太郎はフレームに収めるのが難しい程立派な幹の大きなブナの大木でした。



ガロ山の山頂からは万太郎山、矢大臣山、神楽山も見えとても良い展望でした。
ただ万太郎山に並ぶ数えきれないほどの風力発電のプロペラを見ると少し悲しい気持ちに…。



山頂から少し降りた風のない場所でこの日のメインおやつのところてんを頂きました。

酸っぱいのと甘いのと味も 2 パターン味わえとても美味しかったです。志尾崎さんご馳走さまでした！

帰りにはハート石に立ち寄り記念撮影。

幸せになれる石だそう。

ガロ山に登られた時はぜひお立ち寄り下さい。

下山時は足元にたくさん咲くスミレの花の話で盛り上がりあ
っという間のガロ山歩きでした。



〈コースタイム〉

ガロ山登山口 8:30→心臓破りの坂 8:45→天狗岩 9:05→ガロ山山頂 9:20→休憩（ところてん）
10:00-10:30→ブナ太郎 10:35→下山開始 10:50→ハート石 11:10→登山口下山 12:00

檜山 510m

2018年5月6日（日）

平子・斎藤（富）・渡辺（恵）・柏村・二瓶・他4名

矢祭町の檜山への山行。今回、訪れた檜山は所々に見どころがあって非常に楽しい山でした。



解禁は6月1日からだそうです。鮎の釣り場だけあってすぐそばを流れる久慈川はとてもきれいな川です。
大きな赤い吊り橋がとても印象的です。

川と並行してカラフルな水郡線がすぐそばを走っている檜山ではギンリョウソウやドウ

ダンツツジを見ることができました。

滝のすぐそばを歩けたり

途中かわいい石像？がありました。



（文責・二瓶）

いわきの気になる山（10）

下三峰山（481m）、三ヶ村ボッチ（420m）

2018年1月24日

秋葉信夫、栗崎夫妻、吉田睦、尾形成久

下三峰山は「おふくろの宿」の裏山である。登山道はないので大山祇碑と鳥居のある所の広っぱから適当に取り付く、杉林を登ると稜線に出る。杉の植林地と雑木林のあいだを緩やかに登ると三等三角点（点名：水峰）の下三峰山に着く。

コンパスで山座同定を行う。ランドマークは仏具山と明神山、大丸山、明神石、上三峰山、高ボッチ、焼倉、権現山（三峰山）、大曽根山が確認できた。

時間がかからない山なので、東峰に向かう途中の斜面で、ロープワーク、引上げ（1/1、1/2、1/3）の練習を行う。東峰の傍まで入っている車道を車まで戻る。ミツマタの花が咲いていて春の訪れを感じさせられる。一周約1時間半。

出旅人地区は愛宕山、黒岩山、下三峰山東峰（笹ノ大輪）、三ヶ村ボッチに囲まれた小盆地とあるが、三ヶ村ボッチが分からず役場で調べて貰ってやっと判明。

車道から作業道跡を進み、杉の植林地を登ると稜線に出る。428mピークの少し南東にある。ここでも道標を付ける。

昼前に待ち合わせ場所の「おふくろの宿」近くの駐車場に着き、「しどきの森」で

4人は美味しいと評判の「ソースかつ丼 850円」、私は「山菜うどん 650円」を食べる。



白滝不動堂と白滝を見学する。もう馬酔木の花が咲いている。見事な巨木もあり一見の価値あり。いわきで雪山を楽しみ、美味しいものも頂けた満足の山行でした。

いわきの山もいいなあ～。

（文責：秋葉）

